

科学新聞 2009年12月4日(金)

第32回日本分子生物学会年会 活発な議論で生命科学牽引

生命理解、病気治療への道
オミックスデータの利用法模索

■11日(金)の解析が必要となる。次世代シーケンサーなどの登場により、ゲノムレベルのオミックス情報の新しい大容量データが産出され、これ

らのデータを利用した転写制御や翻訳制御ネットワーク解析が拓く新たな医療・バイオの世界」

しかしながら、これらオミックスデータの利用方法や統合解析などはまだ試行錯誤のただ中にあり、生命の仕組みを理解し、得られた知見を病気の診断や治療に役立てるための道筋は明確ではない。

ポストゲノム解析において、生命の基本単位である細胞における生命プログラムを解明し、生命の仕組みを理解し、それらの知見を病気の診断や治療に役立てていくことが所望されている。

そのためには、細胞の全体像を把握する解析能力を持つ革新的ツールによる大規模かつ多面的なゲノム情報

本ワークショップでは、様々な立場の研究者によるゲノムネットワーク解析からのバイオや医療への取り組みをご講演いただき、ポストゲノム時代に革命をもたらしつつある次世代シーケンサーを利用した新しいオミックス解析実験の紹介やその利用方法の可能性などについても議論する。